

ANIMATION REVIEW

**無理から有利へ、
無機から有希へ**

『涼宮ハルヒの消失』
京都アニメーション

ゴトチヒ

物質の三体を感情や心の機微、気持ちの揺れなどに置き換えられるだろうか？ たとえとして。

気持ちはもやもやとした気体のようなもので、ゆらゆらとしている。ヴァージニア・ウルフの「意識の流れ」手法を考えると、意識は液体状であって、その場その場で低きに流れる。そして、感情が固まったとき、それを表に出す。逆に言えば、感情を固体のように固めなければ、自分の思いや心の内を伝えることはできない。

これらのことを考えるようになったのは、アニメ『涼宮ハルヒの憂鬱』の「ミステリックサイン」での、キョンの一言からだ。

「長門は液体ヘリウムみたいな表情をしていた」

極低温で超流動を起こす液体ヘリウムは、1気圧・大気圧では固体にならない物質だ。絶対零度にすれば、さすがに固体になるが、温度を下げれば比熱が下がる熱力学の法則上、大気圧下で絶対零度に達することは、現代科学技術ではできない。絶対零度近くでは比熱が「無限小に近くなる」ため、「無限小に近い」カロリーで、温度が一度上がる(大気圧がある場合、大気が媒質となって、確実にカロリーを物体に伝達する)。

液体ヘリウムを固体に変えるのは、魔法のようなことではなく、魔法でなければならない。それは、一体なんであるか。

液体ヘリウムな表情、感情の長門有希に魔法をかける。

感情の無い、ビブリオマニアとしてのキャラクターを与えられている長門有希が感情を固体化させることは、無い。常に無表情を浮かべ、何が起こっても、常人がとるだろうリアクションをとらない。手の平を焦がす、みくるビームを受けても、ノーリアクションである。

そんな彼女の液体ヘリウム状の感情を固めさせるには、まさに魔法をかけるしか、方法論が無い。

それは「恋」をするということではないか？

恋をして、相手が好きであると自覚し、感情を固体化させなければ、その思いを伝えることはできない。

話はここで本題に入る。

『涼宮ハルヒの消失』は、そのシミュレーションを終える話ではないだろうか？

さらに言えば『消失』の主な舞台となる並行世界は、1気圧・大気圧ではない場所ではないだろうか？

そこで、キョンは有希に恋をする。いや、有希がキョンに恋をする。

しかし、普通の人間は、1気圧の場所では、生きられない。

そして、普段暮らしている気圧の場所ではないところに訪れた場合、そこから帰ることになる。

潜水士は必ず水中から、水上に戻る。アルピニストは高山の頂から、麓に戻る。宇宙飛行士は大気圏外へ行き、地球へ帰還する。本来住む気圧とは違う気圧の環境へ行く場合、必ずそこか

ら帰ってくる計画を立てている。

だから、キョンは自分の本来住む気圧の場所に戻るのだ。これはあらかじめ、その計画が立てられていたと、考えるのが妥当だ。その計画を立てた人物が誰であるか、古泉一樹の解説がなくても、受け手はわかる。

その人物の望む結果が得られることも、『消失』のシミュレーションの中でわかる。

キョンは本人の意思とは関係なく並行世界に送り込まれ、普段暮らす気圧の場所(元の世界)へ帰ってくるが、それで終わりだろうか？

ここでキャラクターたちの名前のことを考えてみる。

みくるが「未来から来る」という言葉を縮めて、「みくる」と命名されていると考えてみる（「初めての音が未来から来る」を縮めて「初音ミク」と名づけられたように）。すると、有希は無機的意識体がインターフェースとして送り込んだ「有機体」から、「有希」と名づけられたとも考えられる。

単なる言葉遊びかもしれないが、有希と同音の「雪」が降るシーンが映画内では多くある。上空の低気圧と低温の中で、雪の結晶はできる。映画の中で降る雪は、有希の感情が固まってできたたとえるのは、あまりにも感傷的だろうか？ そして、それは水蒸気が塵に凝結してできた、ただの雪ではない。凍らない液体ヘリウムが、魔法がかけられたように凝固して降っているユキなのである。仮にそうだとしたら、『消失』は有希の感情を積もらせたスノードームならぬ、スノーフィルムなのだ。

話を戻すが、製作者がおそらく意図したわけではないが、「有希」とは「希望が有りえる」と解くこともできる。

『ハルヒ』シリーズは、そもそも、無理を有理に変えてしまう話なのだから、1気圧の場所で、液体ヘリウムが固体となってしまうことも、十分有りえるのかもしれない。

そして、無機を有希にかえることだって、できるかもしれない。

それは、無機に魔法をかけてあげることだ。

したがって、これだけは言えるだろう。

彼女はもう、無機ではない。

「ユキ」である。

《終》

備考 2010.8.19に掲示板にアップしたものをリライト。『消失』の原作もアニメ映画も、まだ見えていない状態で、このレビューを書いた。『消失』観賞後、リライトするつもりであったが、少しだけ直しを入れてアップ。

ANIMATION REVIEW

無雙の育へ
無雙の育へ

『京宮ハの影の夫』
京暗ニと一E

にキコ

アニメレビュー 無理から有理へ 無機から有希へ 『涼宮ハルヒの消失』

<http://p.booklog.jp/book/20797>

著者：ゴトチヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gotochihi1980/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/20797>

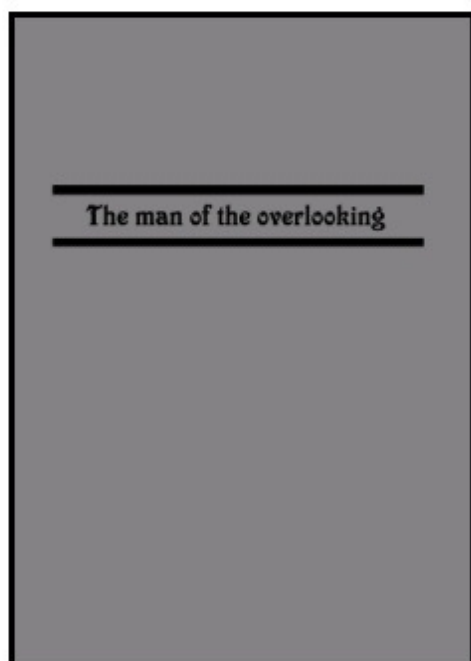
ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/20797>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

広告



The man of the overlooking 01~06

ピカレスク
マジシャンズ
ロマン

Architecture Product System

ブックログのpapier

各巻 ¥50